

Report

Mather's—More Than a Café in Chicago & The Children's Museum in Seattle



2009 年 2 月

神戸市シルバーカレッジ

カレッジマネージャー 藤原 博史

◇◇ はじめに ◇◇

2009 年 1 月 24 日から 30 日まで、アメリカの Chicago と Seattle で休暇を過ごした。

滞在の合間をぬって、Chicago では、シニア向けのユニークなカフェ・レストラン、Mather's - More Than a Café を訪問した。また、Seattle では、子どもと親のための博物館、Children's Museum を訪問した。

思いついて 1 か月余りの間に旅行プランをたて、訪問先のアポ取りもしたので、準備は十分ではなかった。



Chicago で訪れた Mather's - More Than a Café

1. Mather's - More Than a Café とは？

- (1) Mather's-More Than a Café は、Chicago の北、Evanston に本部を置く Mather LifeWays が店舗展開しているシニア向けのカフェ・レストランである。現在、Chicago に 3 店舗を構えている。
- (2) その特徴は、カフェ・レストランでありながら、カルチャー講座やフィットネス講座、パソコン講座など、高齢者のニーズに合ったサービスを提供していることである。

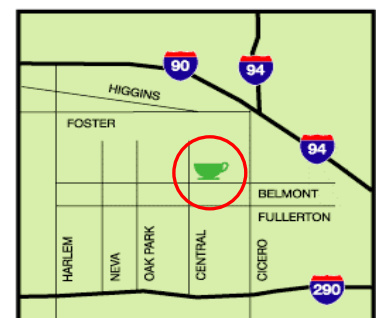


2. 訪問の動機

- (1) 今回、Chicago の Mather's - More Than a Café を訪問したきっかけは、2003 年、月刊雑誌「レジャー産業」に掲載されていた Mather Café Plus（現在の Mather's - More Than a Café）の記事を読み、そのユニークなコンセプトに興味を持ち、いつか機会があれば、訪れてみたいと思っていた。
- (2) それから 6 年近くが過ぎ、思い出したかのようにその記事のコピーを探し出した。そして、厳冬の Chicago へ行くことにした。

3. Mather's - More Than a Café を訪問

- (1) 1 月 27 日、電車とバスを乗り継ぎ、3 店舗のうちの一つ、Central Avenue にある Mather's - More Than a Café へ向かった。市街地からは、約 45 分の距離である。外気温は、日中、零下 7 度くらい。しかし、さほど寒さは感じなかった。Café は、近隣商業地域のような場所に立地しており、Central Avenue のバス道に面していた。



- (2) Café に入り、まず、昼食を取った。この時、Café スタッフの接客態度はフレンドリーで、外国人である私も、親切に声をかけられた。大変気持ちのよい対応だった。



- (3) その後、Café Manager の French さんに会った。シルバーカレッジの英文概要とリーフレットを見た French さんは、「シルバーカレッジの窓が、大変美しい。」と褒めた。アール(半円形)のついたカレッジの窓に、南欧的な雰囲気を感じたのだろう。そして、シルバーカレッジの受講料と学生食堂に関心を示した。

- (4) 面談の後、French さんに、Café をはじめ、エクササイズルーム、パソコンルーム、集会スペース(ホール)などを案内してもらった。ただ、写真撮影は、来ている顧客のプライバシーがあり、許可されなかった。従って、店内の写真は、残念ながら無い。

- (5) Café では、ゆったりとコーヒーを飲み、話す人、カード(トランプ)に興じる人など、各自が思い思いの時間を楽しんでいた。

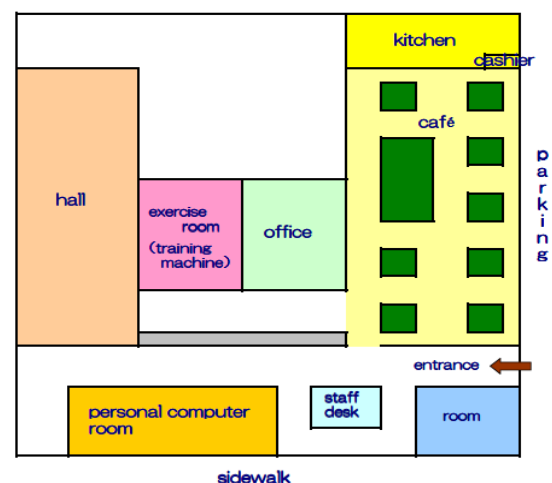
また、エクササイズルームでは、トレーニングマ

シンで汗を流す人、パソコンルームでは、講習中ではなかったが、数人がパソコンに向かっていた。

- (6) この日、Café が提供していたプログラムは、右のとおりである。しかし、訪問したのが午後 1 時過ぎだったので、午前中のヨガなどのプログラムは終わり、食後のピノクル(カードゲームの一種)が Café のテーブルで始まっていた。

- (7) Mather's - More Than a Café では、店舗ごとに、3 か月に一度、Café プログラム(情報誌)を発行し、

Café が提供するレッスンや講座を紹介している。講座によって、Café 内で行うもの、ウォーキングやボーリングのように、屋外や他の施設で行うものなどがある。レッスンや講座の料金は、無料のものから 5 ドル程度のものまで、様々である。パソコン講座も、週 1 回 2 時間の 4 回で 10 ドル程度と、手軽な料金設定となっている。



Tuesday, January 27

9:00 a.m. Mindfit
9:00 a.m. Walking Club
9:30 a.m. Bowling
10:15 a.m. Chair Yoga
11:00 a.m. Gentle Yoga
11:00 a.m. Blood Pressure Screening
12:30 p.m. Pinochle
2:30 p.m. Chorale Group

- (8) お祝いの会も多く、顧客のバースデイ・パーティのほか、中国・春節祭をはじめ、バレンタイン・デイやリンカーン誕生祭などのパーティが続く。パーティ費用も、10 ドル程度と安く、リーズナブルな料金設定である。
- (9) Café の営業時間は、月～金曜日 8:00a.m～4:00p.m.である。営業時間から分かるように、Café が提供する食事は、朝食とランチのシンプルなメニューで、価格も低く抑えている。
- (10) 最後に、French さんは、「日本には行ったことがない。神戸の地名も知らない。ただ、以前にも、日本のある会社のグループが Café を視察に来た。」と言った。

4. 質問に対する回答

以下の内容は、Executive director of Café development の Sassen さんが、私の質問に対して e-mail で回答してきた内容である。

- (1) Mather's - More Than a Café は、高齢者のための Café といった固定観念を取り払い、年齢に関係なく、誰でも利用できる地域に開かれた Café を目指している。
- (2) Mather's - More Than a Café では、Mather Advantage Discount という割引制度を設けている。年間 55ドルを支払えば、食事や各種プログラムの費用が 20%オフとなる。
- (3) Central Avenue の Mather's - More Than a Café には、約 3,200 名の顧客がいる。そして、毎日、約 80～100 名が利用している。
- (4) 提供するプログラムは、利用者の意見も聞き、Café Manager とプログラムの専門家が共同で作成している。

5. まとめ

- (1) Mather LifeWays は、Alonzo Mather(1848-1941)による Mather 財団によって、1941 年に設立されたユニーク非営利団体である。Mather's - More Than a Café だけでなく、ケア付き住宅 (Senior Residence)などの事業も行っている。
- (2) Mather's - More Than a Café は、単に高齢者が集まる Café にとどまらず、カルチャー講座、フィットネス講座、パソコン講座、各種パーティをはじめ、電話相談業務なども行い、地域のシニア世代の人たちに、ファミリーレストランなどでは得られない Health & Wellness のプログラムを提供している。
- (3) 地域住民のリピーターが多いということは、利用者の意見を聞くことによって、マーケティングの基本であるニーズとウォンツをうまくつかんでいると言える。
- (4) シニア世代にとって Well Aging は大切である。Mather's - More Than a Café は、“adventure of aging better” を目標に、新しい業種のイニシアティブを取っている。日本において、このような業種が成功するかどうかは別にして、Chicago においては、Well Aging を支える業種の一つであることに間違いはない。

Seattle で訪れた Children's Museum

1. Children's Museum とは？

- (1) The Children's Museum Seattle は、0 歳から 10 歳までの子どもとその家族が、楽しみながら学べる体験型の博物館である。運営は、非営利団体が行っている。
- (2) 場所は、ダウンタウンの少し北、1962年の万博跡地に造られた総合公園 Seattle Center の Center House 1 階にある。すぐ横には、ランドマークの Space Needle がそびえ立っている。

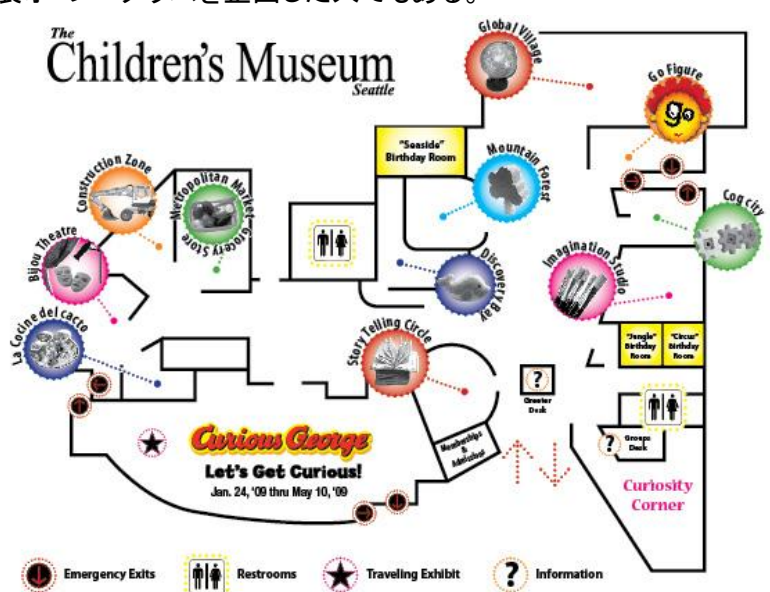


2. 訪問の動機

- (1) Seattle は、シルバーカレッジの国際交流・協力コース3年の学生が、グループ学習のため、平成 17 年から3年連続で訪問している街であり、その度に、神戸市シアトル事務所には、大変お世話になっている。そのお礼も兼ねて、Chicago からの帰りに Seattle に立ち寄ることにした。
- (2) しかし、残念なことに、神戸市シアトル事務所では、所長以下全員が Portland へ出張中のため、会うことができなかった。なお、所長からは、事前に Seattle の情報誌を宿泊ホテルに届けていただいた。
- (3) また、神戸市出身で、Seattle 在住のキュレーター(学術的専門知識を持った学芸員)である三木さんと奥様には、2007年11月、シルバーカレッジで学生と懇談会を持った経緯があり、今回、Seattle でお二人と再会することにした。

3. Children's Museum を訪問

- (1) 1 月 29 日、三木さんの案内で、Children's Museum を訪問した。三木さんは、キュレーターとして、この Children's Museum の展示・プログラムを企画した人でもある。
- (2) 入館料は、子どもと大人が 7.50 ドル、祖父母が 6.50 ドル、1 歳未満は無料である。子どもと大人が同一料金というのは、日本では、発想できない料金体系である。
- (3) 三木さんによれば、午前中は、小学校から学習に来る児童が多く、午後は、親に連れられて来る子どもが多いとのこと。私たちが入館した時刻は午後 3 時半頃だったので、入館者はさ



ほど多くなく、子供たちは、気に入ったコーナーを独り占めできる状態であった。

- (4) 各コーナーは、子どもの年齢に合った展示となっており、Story Telling のコーナー、スーパーマーケットでの買い物ごっこや劇場遊びができるコーナー、山登り遊びができる Mountain Forest など、子どもを飽きさせない展示に感心した。また、地元とあって、寄付をした Microsoft の社名入りの展示室もあった。なお、展示物には、スペイン語の併記があり、シアトルにおいても、ヒスパニックが増えていることが伺えた。
- (5) ユニークなのは、パーティールームがあることで、子どもの誕生パーティをここするのが人気だという。三木さんが言うには、子どもが満足する手前で帰る。そうすれば、また来週来たいという気持ちが続くとのこと。
- (6) ところで、館内 Global Village の展示コーナーの一角に、姉妹都市である神戸の街並みを再現したコーナーがあった。三木さんによれば、当時、神戸市交通局、土木局、環境局、神戸高速鉄道、弁当の淡路屋などの協力を得て、このコーナーを作ったという。すべてが子どもの目線で作られており、弁当販売ごっこや畳のある日本家屋のセットに、子どもたちは目を輝かせていた。



4. まとめ

- (1) Children's Museum を訪問する前は、文字通り、子どもの博物館だと思っていたが、大きな間違いであった。展示物は、全て、子どもが手で触り、遊びを通して、創造性や好奇心を育て、学習できるように工夫されていた。
- (2) 私が以前 Seattle を訪れたのは、今から 23 年ほど前である。当時と比べ、臨海部に港湾機能用地が出来ていたことや、高層ビルが増えていたこと。そして、ビジネス機能が Bellevue に移っていることなどを知った。
- (3) 丁度、私が Seattle を訪れていた頃は、地元企業の Microsoft、Boeing、Starbucks が大幅な人員削減を発表した頃でもある。世界的な景気後退が続く中、同じ地元企業の Amazon はどうなのだろうか。
- (4) 最後に、三木さんは、「神戸にも Children's Museum を作りたい。」と希望をふくらませていた。